

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.187

2021. 4. 27
発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議
連絡先 県生協連・県消団連
TEL 019-684-2225
FAX 019-684-2227

「ピースアクションinオキナワ～沖縄戦跡・基地めぐり～」

オンラインで参加 ーいわて生協ー

3月26日に日本生協連と沖縄県生協連共催で「ピースアクション in オキナワ～第38回沖縄戦跡・基地めぐり～」オンライン学習会を開催しました。配信当日は全国から51生協516人。いわて生協は22名が視聴参加しました。

今回参加し、3月26日が沖縄戦が始まった日、ということを知りました。沖縄といえば、魅力あふれる観光地のイメージが強く、私自身25年前に行った家族旅行での楽しい思い出が蘇ってきます。米軍基地が常に生活の中にあり、予測が出来ない落下物事故や授業の中断が現実にあって、そのための避難訓練が行われている小学校があること。この春小学生になった息子の小学校がもしこんな環境にあつたらと思うと、日本は平和なのか？と疑問がわいてきます。

そして、対馬丸生存者平良啓子さんのお話は、壮絶な体験した方だからこそその臨場感と、方言を混ぜながらの言い回しが相まって、とても心に響きました。9歳の平良さんに命の危険が迫る中、飲水を貯める工夫をしたり、魚を捕まえて食べるころなど、「私は生きてい」という強い想いが伝わってきました。

今回のような学習をする度に、子どもたちが親になる頃の日本はどうなっていくんだろう、と不安が募ります。孫の世代は、外遊び時間が制限されるのでしょうか？平和とは何だろうか、自然環境はどのくらい保たれているのだろうか…まだまだ勉強不足で予測ができません。今後も学習を継続して、子どもたちの未来が少しでも良いものになるよう、活動していきたいです。(君成田明希)



当日は学習講演のほか、全国大学生協連の平和の取り組み報告などもありました。

お知らせ 9条改憲NO！全国市民アクション岩手の会主催

「平和」「いのち」「人権」が大事！**5・3憲法集会 in いわて** 参加無料

5月3日(月・祝) 13:00～14:30 岩手教育会館2階多目的ホール

講演：麦倉 哲さん(岩手大学教育学部特命教授)

◇集会後に、ピースパレードを予定。思い思いの仮装やプラカード等持ち寄ってアピールしましょう！

◇当日はYouTube ライブ配信も実施。URL⇒<https://youtu.be/rvwxqLCn4ig>

※集会は内容の変更や中止の場合あります。岩手県生協連までお問い合わせください。

「9条改憲NO！改憲発議に反対する全国緊急署名」(4月末現在)

岩手の署名数 2万2千筆 全国では105万5千筆)

※5月末に一旦集約します。手元にある署名は、岩手県生協連までお送りください。

事務局からのお知らせ

学習にご活用ください！—九条の会ブックレットのご紹介—

全国九条の会事務局から、2月17日に開催の学習講演会を記録したブックレット刊行のお知らせがきました。今回、各9条の会にニュースと一緒に1冊ずつお送りしましたのでご確認ください。アメリカ軍と日本の自衛隊との共同行動の持つ危険な意味を明らかにした内容です。ぜひ学習に活用ください。

九条の会ブックレット「菅政権の成立と改憲問題の新局面」 —改憲発議阻止のために—

目次 はじめに…小森陽一

I 「バイデン政権の成立と日米軍事同盟の強化」

—第5次アーミテージレポートにもふれて—…布施祐仁

II 「敵基地攻撃能力保有」のいま…前田哲男

質疑応答

学会協議会員任命拒否と反憲法政治…小澤隆一

おわりに…小森陽一

資料編 [2020年12月18日閣議決定]

国民を守るための阻止力向上に関する提言／日米安全保障協議委員会（2+2）共同発表

2021年4月1日発行 A5判64頁 1冊500円



◇追加で各9条の会学習用としてほしい場合は、1冊400円（送料はこちらで負担します）でお届けします。岩手県生協連までご連絡ください。

コラム — 米国政府の「ダブルスタンダード（二重基準）」の「外交姿勢」を許してはい

巷間「米中対立」が話題になる中、ある政党の機関紙が「中国の人権問題 国際法に則して批判を」を題して、同党委員長の国会内での記者会見を報じておりました。とても注目するべき内容であると思いますので、まずはそれを一読、確認してみましょう。

（委員長）は中国が人権問題への批判に対し「内政干渉だ」と反論していることに触れ、「世界人権宣言、国際人権規約、ウィーン宣言という一連の国際的な人権保障の取り決めがあり、中国は全部に賛成している。賛成した以上、順守する国際的な義務がある」と指摘。「『国際法に反する行動だ』という中国への批判が世界的に弱い。日本政府がそういう批判をしたのをみたことがない」と述べました。

さらに、「米国にも弱点がある。米国は自らの外交政策に合致する場合のみ、国連の人権システムに従うということを原則にしている。米国の利益に合う場合には人権問題をいうが、そうでない場合は言わないというダブルスタンダード（二重基準）が立場を弱くしている」と指摘。「国際的な人権保障の取り決めに則して批判することが何よりも大事だ」と語りました。

こんな中、例により米国国務省は3月30日、恒例の世界200カ国・地域を対象にした2020年版「人権報告書」を発表したとのこと。自国のことは棚に上げて、中国やロシアなどの「人権や民主主義の問題を指摘」している内容。

コラム子は毎年この「報告書」の発表に触れ、自問して来たことは「米国よ、あなたの国の人権、民主主義の問題はどうなんですか？」と言うことであります。今回も同じ感想を抱いております。勿論中国やロシアなど「人権、民主主義の問題」を良しとはしないことは論を待たないことであります。

コラム子も日本国憲法下で、「人権や民主主義の発展」を訴える「国民運動」の末席に参加していますが、国際社会の「模範」とならない、米国政府の「言動」に対し、はっきり「ノー、止める！」と大きな声をあげる事が求められていると、改めて思います。(T)

5月の街宣活動

※荒天中止

10日(月)12:15~12:45盛岡市大通・野村證券前

3密を避け、宣伝行動を中心にしながら、「改憲発議に反対する全国緊急署名」を呼びかけます。ご都合のつく方は、ご参加ください！

